

## 1 秋冬ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
さび病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生量は平年並であった。( /±) ・15~20℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高く( /-), 降水量は平年並か多いと予報されている。( /±~+)
べと病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生量は平年並であった。( /±) ・15~20℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高く( /-), 降水量は平年並か多いと予報されている。( /±~+)
ネギアザミウマ	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害株率及び被害度は平年並であった。( /+~±) ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。( /±~-)

## 2 作物共通害虫発生現況

病害虫名	発生時期	発生量	発生現況
オオタバコガ	—	—	・フェロモントラップによる誘殺数は、登米市ではやや少なかったが、その他の地点では平年並であった。

※予報の根拠 ( 発生時期 / 発生量 )

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

より詳しい内容は、次のページよりご確認ください。

次回、発生予報第 11 号の発行日は、10 月 16 日(金)の予定です。

## －10 月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:9月8～11 日

天候予報:仙台管区气象台9月 17 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生量は平年並であった。
- (2)15～20℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並が多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生量は平年並であった。
- (2)15～20℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並が多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害株率及び被害度は平年並であった。
- (2)少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並が多いと予報されている。

## 2 防除のポイント

### (1)共通事項

- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。  
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・出荷時の品質低下を防ぐため、発病葉位と収穫時期を考慮した薬剤防除を行う。
- ・台風等の大雨により浸水・冠水しやすいほ場では、明きよを設置するなど、事前の排水対策を行なう。また、茎葉等に泥水などが付着した場合は、動噴等で洗い流した後、殺菌剤を散布する。
- ・ねぎの病害虫は、にんにく・たまねぎにも発生するので、近接するほ場でこれらの作物を栽培する場合は特に注意する。

### (2)さび病, べと病, 黒斑病・葉枯病

- ・すでに病斑が見られ、発生に好適な条件が続く場合は、7～10 日間隔で薬剤防除を実施する。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を行う。

### (3)ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ・ネギコガ

- ・ネギアザミウマは卵から成虫まで異なる生育ステージが混在するので、多発時には薬剤の散布間隔を短くするなどの対策を行う。また、ウイルス病を媒介することがあるので、発生初期の防除に努める。
- ・これら害虫は野外越冬が可能なので、今年多発したほ場では、翌年の定植時の防除対策に努める。

#### －農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターのトップページ：<http://www.famic.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

## オオタバコガの発生現況と防除のポイント

フェロモントラップ設置:角田市, 名取市, 大崎市, 登米市, 石巻市  
天候予報:仙台管区气象台9月17日発表

### 1 発生現況

・フェロモントラップによる誘殺数は、登米市ではやや少なかったが、その他の地点では平年並であった(図1)。

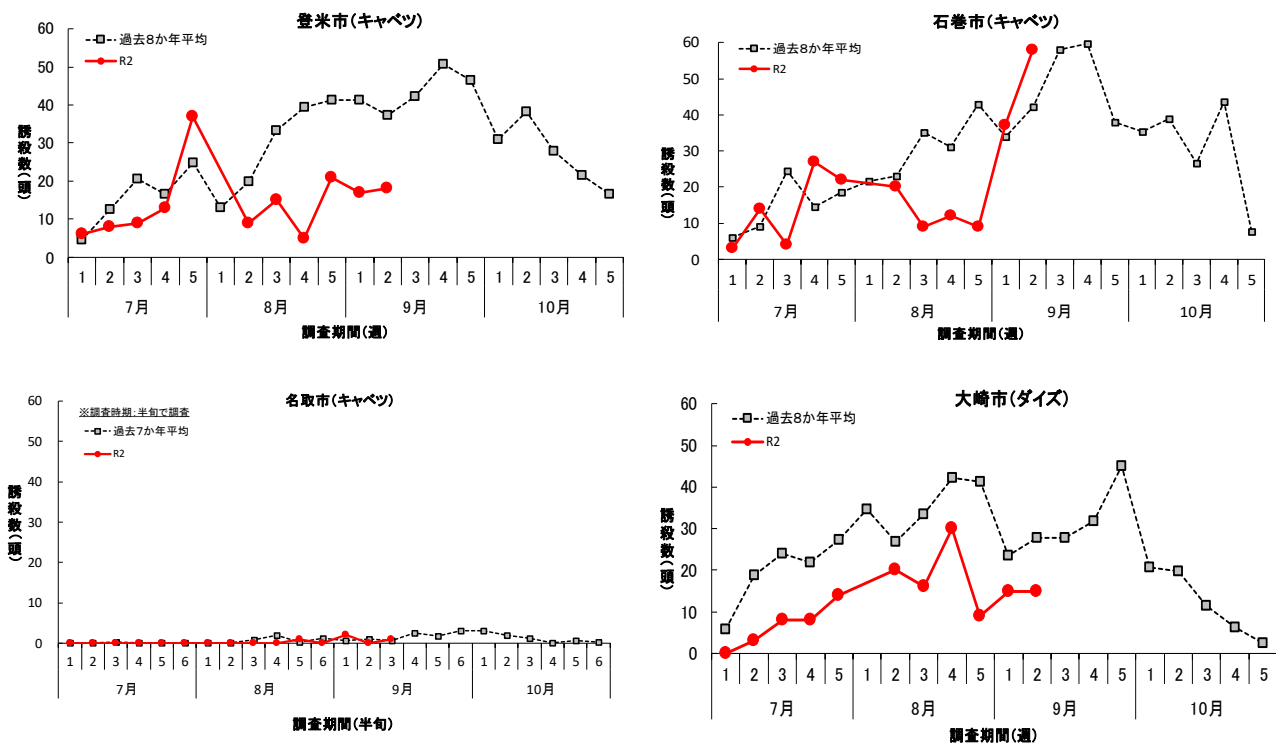


図1 オオタバコガの誘殺状況

その他の地点の結果は病害虫防除所のホームページを参照してください。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r02trap.html>

### 2 防除のポイント

- ・向こう1か月の気温は平年より高いと予報されており、幼虫の加害期間が長くなる恐れがあるため注意する。
- ・薬剤防除は、高い防除効果が得られる中齢幼虫までに行う。
- ・薬剤抵抗性の発達を防止するため、IRACコード※が同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。  
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの
- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると防除が困難になるため、ほ場をよく見回り見つけ次第捕殺する。

- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・被害部位の切除や摘心、摘蕾等で生じた残さには卵や幼虫がついている場合があるため、ほ場外で適切に処分する。
- ・施設栽培では、開口部に寒冷紗や防虫網(4mm 目合以下)を張って成虫の侵入を防止する。

### －農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターのトップページ：<http://www.famic.go.jp/>

#### 《お問い合わせ先》

##### 宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)